

薬にはどんな特徴があるの？

みなさんは、かぜをひいた時、薬をのまなくても治ったことがあると思います。それは、みなさんの体に、「自分で病気を治す力（自然治癒力）」があるからです。



みなさんの体には、
自分で病気を治す力が
あります。

一方、高い熱が出た時は、薬を飲むことがあります。薬を飲んで病気が治ると、「薬で病気が治った！」と思いがちです。

でも、薬はあくまでサポーター。病気の際は、サポーターだけに頼らず、しっかり休んで、みなさん自身が自分の「治す力」を応援してあげてください。



「薬」は、サポーター。
大事なのは、よく休んで
自分の「治す力」を
応援すること。

薬には、病気を治すのに役立つ「作用」と、体にとって都合の悪い「副作用」があります。

例えば、花粉症の薬には、鼻水を止める「作用」がありますが、眠くなる「副作用」があります。痛み止めの薬には、痛みをやわらげる「作用」がありますが、胃が痛くなる「副作用」があります。



薬には、病気を治すのに
役に立つ「作用」と
体にとって都合の悪い
「副作用」があります。

また、薬には「病気を治す」薬と、「ツライ症状をやわらげるけれども、病気そのものは治さない」薬があります。

例えば、熱を下げたり、痛みを効く解熱鎮痛薬は、症状をやわらげる薬なので、解熱剤で熱が下がっても、病気が治ったとはいえません。薬が切れると、また熱が上がるかもしれないので、無理をせずに、よく休んでしっかり治してくださいね。



薬の性質を知って
上手に使ってください。